第６期　小金井市地域自立支援協議会　部会活動報告

協議テーマ	１　医療的ケア児の勉強会
開催回・開催日	１月 14 日（火）午後４時 30 分から
記録担当委員名	生涯発達支援部会　　小幡美穂

【協議概要】

医療的ケア児の勉強会

テーマ「医療的ケアを必要とする子その合理的配慮とは…」

内容①　講演　　午後４時30分～５時30分

「医療的ケア児の支援から見える“かべ”とは」

講師　砂川　愛さん（児童発達支援More　児童発達支援管理責任者）

②　意見交換

午後５時30分～６時15分

参加者おおよそ30名

医療の進歩により、今、医療的ケアを受けながら在宅で過ごす子どもが増えている。子どもたちはその状態も様々だが、普通学級や保育園、幼稚園に在籍する子どもも増えており、その受け入れ体制整備が喫緊の課題。すべての人が幸せにくらせる「まち」を作るために、医療的ケアを必要とする子どもたちのことをもっと知りたいという思いで、実際に支援をしている職員から、現場の話を聴く機会を設けた。後半は参加者とテーマをもとにディスカッションした。

【課題となった事項の整理】

医療的ケアを必要とする子の現状と課題

1. 「動ける医療的ケアを必要とする子の行き場がない」という保護者の声
2. 医療ケアに注意が向きがち。無理をさせないという対応ではなく、療育的な関わりがあることで子どもの成長がみられる。
3. 保育や学びの場で、医療的ケアを必要だということで受け入れを断られるケースがある。
4. 医療的ケアを必要とする子に対する支援体制が、地域格差が大きい。
5. 市は、医療的ケアを必要とする子、障害のある子の実態を把握できているのか。
6. 児童発達支援センターなどの療育機関や、保育園・幼稚園・学校といった子どもの生活や学びの場との連携は取れているのか。

【課題解決に向けて】

１，　　１、２の課題解決のために、児童発達支援 MORE などの機関の情報が市民に提供できることは必須。

２，　３～５については、「第５期障害者福祉計画」の中にもある「医療的ケア児に対する関連分野の支援を調整するｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰの配置」と関係機関（医療・療育・教育・保育等）の情報共有や協議の場が必要である。

３，　児童発達支援センターきらりとの連携を進める。「発達障害」、「医療的ケア」と専門分野はそれぞれあるとしても、一人の子どもの支援を考えた時に、「何ができるのか？」といった視点で、協力しながら進められると良い。

例えば、お互いのスキルの情報交換など普段からのコミュニケーションの機会を増やすことで、連携は進む。

４，　小金井市の公立学校でも医療的ケアを必要とする子が普通学級に通うケースも見られる。その支援体制を通して、「どうすればできるのか」を考える機会とし、体制整備のための礎とする。

５，　医療的ケアの必要とする子の支援体制は喫緊の課題であり、来期以降も引き続き体制整備について協議を重ねる必要がある。

【次回の協議内容予定】

平成３１年度の振り返りと、来期の課題整理

【次回の開催日程】

部会３月 19 日（木）